

都心キャンパスに通う大学生の地震防災に対する認識と行動に関する研究 —その1 アンケート調査の概要と地震防災に関する知識—

准会員 ○ 後藤 裕美*1
正会員 石川 孝重*2
正会員 伊村 則子*3

地震防災 都市型 防災行動
防災知識 大学生 アンケート

§ 1 はじめに

既往研究の調査より、都市災害に関する防災教育、特に一般市民を対象とした防災教育があまり行われていない現状が明らかになり、昨年はホームページによる教材開発を行い、都市生活者のための防災教育について報告した。¹⁾

本年度は、都市生活者の現状把握の一環として、都心のキャンパスに通う大学生を対象に、自宅から離れた大学で地震に遭遇した際に、どの程度自ら判断し対応できるのか、大学との関わりを的を絞り、災害対応や防災知識などに関するアンケートを実施した。本報では調査概要と地震発生時の防災対応力、地震防災の知識について報告する。

§ 2 調査概要

アンケート調査は、都心キャンパス(東京都文京区)に通うN女子大学家政学部・文学部・理学部の1～4年生を対象に実施し、配布383部、回収326部(回収率85%)、有効回答は325部を得た。配布・回収はすべて手渡しで行った。回答者の属性を図1に示す。なお、分野の特性から住居学科は家政学部に含まれるが、住居学科とそれ以外の家政学部の学生を分けて考察した。居住形態は実家81%、一人暮らしなど14%、学生会館・寮など5%である。居住地域/出身地域は東京都が一番多く、東京・神奈川・千葉・埼玉県でそれぞれ全体の88%/61%を占める。防災の先進地域出身者は、横浜市29人、静岡県9人、兵庫県3人おり、また少ないながらも出身地域は全国にわたっている。

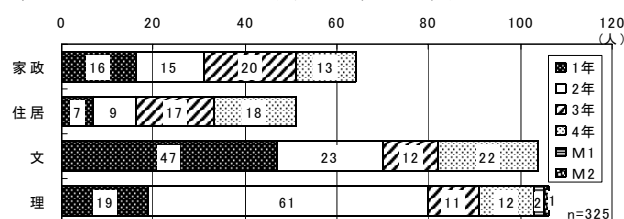


図1 回答者の内訳

つぎに、アンケートの構成を表1に示す。このうち問1,2,4,5は文献2(入学時に配布され、災害時の対処が掲載されている)の内容から作成した。問6,8は過去に実施された東京都と静岡県での市民調査³⁾、問20,23,24,25は同じく静岡県での市民調査⁴⁾と比較した項目である。

§ 3 大学内で地震災害に遭遇した際の防災対応

ここでは、表1に示すように初期対応、避難場所、東海地区警戒宣言発令時の対応についてたずねた。

3.1 初期対応

在校時に震度6強の地震が発生した場合

表1 アンケートの構成

●大学内で地震災害に遭遇した際の防災対応 1. 場面想定別の初期対応 2. 大学からの避難場所 4. 東海地区警戒宣言発令時の対応 5. 東海地区警戒宣言発令時の授業措置 ●地震・防災の知識 6. 災害伝言ダイヤル 7. 帰宅困難者 3. 警戒宣言 8. ライフライン、マグニチュード 9. 自助努力 ●大学の環境 14. 避難訓練の希望 15. 地震発生時に知りたい内容 16. 大学内で危険だと思う場所 ●地震・防災の意識 10. 大学からの広報『学生生活案内』 11. 地震防災の関心度 12. 地震に対する危機感 13. 家族・友人との話合い	●防災に関する体験 ○災害体験 17. 災害体験の有無 18. 地震災害体験談の聴講の有無 ○防災教育 19. 大学での地震に関する講義の有無 20. 防災教育の有無 21. 防災館の利用の有無 22. 防災訓練の参加の有無 ○家庭での取り組み状況 23. 非常持出品 24. 家具の固定 25. 家具の固定をしない理由 ○属性 26. 居住形態・居住地域・出身地域 27. 学科・学年 28. 自由記述
--	---

の初期対応を場面別(a.教室内/b.EV内/c.校舎の外/d.ブロック塀付近)にたずねた。その結果図2のように、教室にいる時は「机の下に入る」という適切な回答が圧倒的に多いが、EV内やブロック塀付近にいる場合の対処は誤答が多い。EV内の誤答には「非常ボタンを押す」(26%)が一番多く、次いで「姿勢を低くする」(15%)「座る」(6%)となり、ブロック塀付近の誤答は「その場にいる」(12%)「体勢を低くする」(8%)「学内に入る」(8%)となっている。これは、小学校の頃から机の下に入る初期対応は教えられても、EV内のような特殊な場面での対応行動はほとんど教えられていないことや、示された塀がブロック塀である認識がもてないことが原因として考えられる。またクロス集計からは、知識としては学部(学科)間の差はほとんどない。

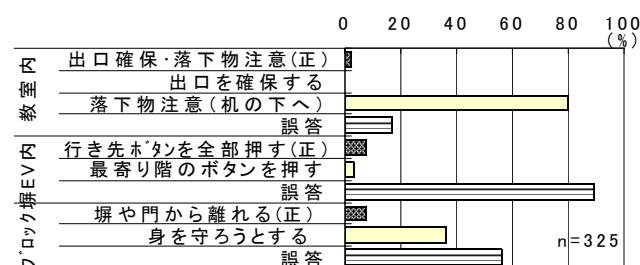


図2 在校時に地震が発生した場合の初期対応

3.2 避難場所 大学からの一時避難場所と広域避難場所を知っているかとその場所をたずねた。その結果図3に示すように、正しく回答した学生は、知っているという回答した学生のうちの、一時避難場所9%、広域避難場所1%にとどまり、ほとんどの学生が知らないことになる。

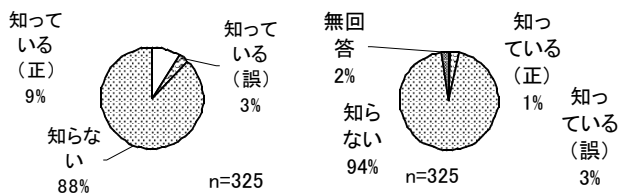


図3 在校時の一時避難場所(左図)・広域避難場所(右図)
3.3 東海地区警戒宣言発令時 3場面別に警戒宣言発令時にどうするか知っているかとその対処をたずねた。

a.大学にいる場合の正答といえる適切な行動は「帰宅する、大学の指示を受ける」である。在校中の適切な対応を知っていると回答したのは2%しかいなかったが、うち無回答1人を除き全員が正答した。知らないと答えた98%のうち、最も多かった適切でない行動は「ついて行く」「人の流れにのる」といった人の行動に合わせるものであった。

b.通学途中の正答といえる適切な行動は、「帰宅する」というものである。知っていると答えた学生は3%で、そのうち正答者は46%であった。知らないと答えた97%の中で、適切でない行動で最も多かった回答は「家に連絡をする」「親に電話する」といった誰かに連絡とるものであった。

c.在宅中の場合の正答といえる適切な行動は、「自宅に待機する」である。知っていると答えた学生は12%で、a.b.より約10%多かった。しかしそのうち正答者は4人しかおらず、a、b.の対応を知っていると答えた人の中の正答者人数とはほぼ等しく、知っていると答えている人が多くても実際にはほとんど正しい対応は認識されていないようだ。

また、知らないと答えた誤答に、警戒宣言発令に対し「机の下に入る」「火を止め退路の確保」など地震発生時としての回答が多く、理解していないこともわかった。

§ 4 地震・防災の知識

ここでは言葉の理解度合いから、地震・防災に対する知識の程度を把握した。結果を図4～図8に示す。

これより大学生では住居学科の理解度合いが全般的に高いことがわかる。特徴的な傾向をみると、図4の災害伝言ダイヤルの使い方は、住居学科の学生が使い方を一番知っているが、「知らない」と回答した割合に注目すると、住居学科と市民アンケート調査がほぼ同じであり、文学部・理学部の学生の理解が低いことがわかる。図5の帰宅困難者は、住居学科以外の学部では「聞いたこともない」がほぼ半数近い結果となったが、「大学から自宅まで帰るルートを知らない」学生は住居学科が一番多かった。図7のマグニチュードは正しく理解している人が多く全学科とも8割を超えていたが、ライフラインについては住居学科以外は正答率が低かった。

§ 5 おわりに

大学との関わりにおいて学生の地震防災対応力は十分でないことがわかった。教室内で机の下にかくれることは唯一理解していたが、他の初期対応や大学からの避難場所、東海地区警戒宣言発令時の対応についてほとんど

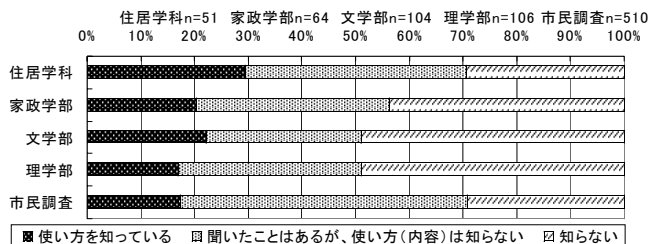


図4 災害伝言ダイヤルの使い方

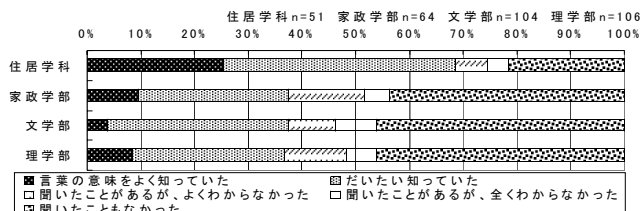


図5 帰宅困難者

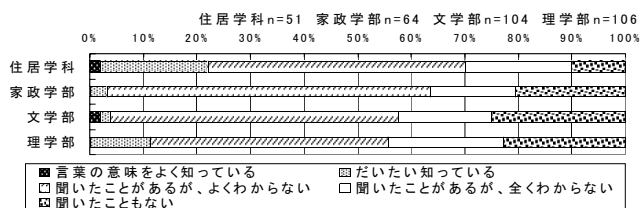


図6 警戒宣言

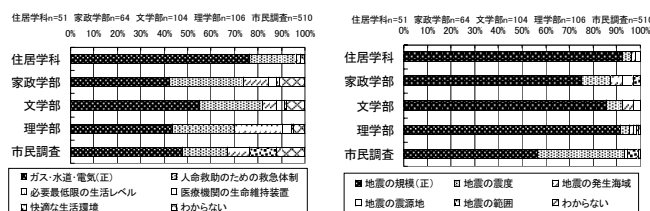


図7 ライフライン(左図)、マグニチュード(右図)

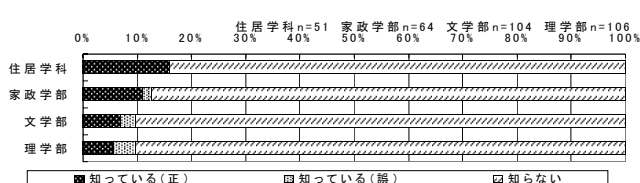


図8 自助努力

の学生が認識していない。住居学科の学生が他学部の学生より理解が高いことがわかったが、これが学習による効果であることから、大学側から学生に対し、防災に関する情報発信の方法と内容を再考することが急務である。

なお、本研究は当時研究室に所属していた江尻保世君・友水愛美君の協力を得た。ここに感謝する。

【引用文献】

- 1) 福井実央, 石川孝重, 伊村則子: Webを活用した都市生活者に対する防災教育, 日本建築学会大会学術講演梗概集(東海)(都市計画), pp.495~496, 2003年9月。
- 2) N女子大学: 学生生活案内2001, pp.28~30, 2001年度。
- 3) 東京大学社会情報研究所廣井研究室: 災害関係調査報告書, <http://www.hiroi.isics.u-tokyo.ac.jp/index-houkokusho/-rist.htm>, 2003年2月25日。
- 4) 静岡県企画部: 東海地震についての静岡県民意識調査(調査実施: 平成11年10月), 平成12年版世論調査年鑑, 調査71, pp.231~237, 平成13年3月30日。

*1 日本女子大学住居学科 学生

*2 日本女子大学住居学科 教授・工学博士

*3 武蔵野大学環境学科 講師・博士(学術)

*1 Student, Dept. of Housing and Architecture, Japan Women's Univ.

*2 Prof., Dept. of Housing and Architecture, Japan Women's Univ., Dr. Eng.

*3 Lecturer, Dept. of Environmental Sciences, Musashino Univ., Ph. D.